



加害者

沖縄県立開邦高等学校 3 年 金城 初穂

青い空。
映る戦争の暗い影。
忘れられないその記憶。
飽きも足らずに海を越え
それは今のこの時も
青い空。
世界を全部映し出す。

吸い込まれるようなその空に
ここにも一つある記憶。
私の島を壊したそれは
命の光を奪ってく。
光を一つ消していく。
吸い込まれるようなその空は
今日も明日もその先も。

私はベトナムに行くまで、戦争の「被害者」は私たちであると思っていた。確かに私の島沖縄は第二次世界大戦中の沖縄戦で悲劇を生んだ島である。しかし、この旅で、私は初めて「日本人」として戦争の「加害者」という立場に立った。日本は第二次世界大戦時にベトナムを統治していた時代がある。歴史の教科書にもその事実は書かれている。「日本は東南アジア諸国を統治した」と。しかし、私はその詳細を知らなかった。どの国を統治していたのか、どのように統治していたのか。全くといっていいほど知らなかった。そんな私が今回の研修で初めて「加害者」となった。ベトナムの人はどのように私たちを見ていただろう。確信があるわけではないが、戦争の話題の節々に神経を尖らせて聞かれているような気がした。

「過去は変えられない、未来に向かって手を取り合って進んでいこう」最近よく聞く言葉だ。戦争の責任？そんなのは過去の話だと。私たち「新しい世代」にまで責任はないと。本当にそうなのだろうか。やられた側は覚えている。そしてずっと気にしている。やった側がその事を覚えているか、そのことについて考えているか。
それに私は答えられるだろうか。

戦争の「被害者」であり「加害者」である私だからこそできることがここにある。そう感じた。